

Episode2 サル、類人猿、人類… 化石から初期人類



エジプトピテクス *Aegyptopithecus*

学名は「エジプトのサル」という意味。初期の
猿類。ここから枝分かれし、ニホンザルの
ような「旧世界ザル」と「類人猿」が登場する。

プロコンスル *Proconsul*

20世紀初頭に飼育
されていたチンパン
ジーの名前に由来し、学名は「チンパン
ジーの前」という
ような意味合いにな
る。

サルと 人類の共通祖先

約3400万年前になると、「サルの仲間」と
「人類・類人猿の仲間」の共通祖先が現れました。
エジプトから化石が発見されている「エジプトピ
テクス」です。樹上で暮らす体重7kgほどの長い
四肢と尾を持つ、サルに似た姿の動物です。そし
て、この動物の仲間からやがて、サルの仲間たち
が人類・類人猿と分かれて進化したと考えられて
います。

サルの仲間と分かれた後、1000万年ほどで、
人類も含めた類人猿の祖先が現れました。その1
つが「プロコンスル」です。ウガンダやケニアの
約2300万年前の地層から、体重約20～50kg
の複数の化石が発見されています。現在のチンパ

ンジーやゴリラなどと同じく、尾がないのが特徴
です。

最古の人類とは？

人類と類人猿が分かれたのは、約700万年前と
考えられています。アフリカの中央部にあるチャドか
ら、これまでに知られている限り最も古い人類の化
石が発見されているからです。

2001年に発見された、この“最古の人類”を「サ
ヘルアントロpus (*Sahelanthropus*)」といいます。
ただし、化石が見つかってはいるものの、ほぼ完全
な頭骨の他は、数点の下顎骨片と歯が数本と部分
的なものばかりで、一体どんな姿をした人類だった
のか、その全身像は謎に包まれています。

類人猿と人類は どう違う？

類人猿は、人類にとって最も身近な“親戚”
だが、その最大の違いは「歩き方」。アフリカの
類人猿は地上を歩くとき、「ナックル・ウォーク」
といって、指を三つ折りにした真ん中の背側を
つけて歩く。一方、人類は背筋をのばし、2本の足だけ
で体を支えている。人類のこの歩き方
は「直立二足歩行」と呼ばれる。

ヒトにとって最も近い
類人猿、チンパンジー。



ナックル・ウォークの手

…枝分かれは続く!

の誕生

エチオピア国立博物館蔵/
Photo : © T. White 2009



手のひらは頑丈で、手首はよく動く。サルのように木登りをするのは得意だったとみられている。

Point
手



初期人類の“代表選手”

Ardi

Point
足

親指が横に広がっており、枝などをつかむことができた。これは、樹上生活をおくる上で大切なポイント。ただし、この足は地上を二足歩行することもできたようだ。



アルディピテクス・ラミダス

Ardipithecus ramidus

その化石は、1990年代にエチオピアのアワシユ渓谷で発見された。学名の頭の部分をとって「アルディ」と呼ばれている。身長120cm、体重45kgほどの森林で暮らす女性だった。

イラスト／菊谷詩子

化石が教えてくれる人類のヒミツ1

アルディピテクス・ラミダス

初期人類の中で、その姿がよくわかっているのは、エチオピアで発見された「アルディピテクス・ラミダス」です。

その化石の年代は440万年前と考えられています。たくさんの化石が発見されており、その中でも「ア

ルディ」という愛称がつけられた化石は、全身の多くが残っていました。アルディの研究などから、アルディピテクスは樹上で暮らすことも、地上を直立二足歩行で移動することもできたとも考えられています。



アウストラロ
ピテクス・
アファレンシス
*Australopithecus
afarensis*

その化石は、1970年代にエチオピアのアファールで発見された。発掘現場で流れていたビートルズの曲から「ルーシー」という愛称がつけられている。身長105cm、体重30kg程度の女の子だった。

イラスト／菊谷詩子

がっしりとした顎には、大きな歯が並ぶ。樹上の果実だけではなく、草原の植物の塊茎などを食べることができたとみられている。

写真提供：SPL/PPS 通信社

Point
顎



Point
骨盤

骨盤の形は、アルディなどと比べると、私たち現生人類に似ている。このことから、直立二足歩行ができたことがわかる。

Point
足

ルーシーの骨だけではわからないが、「土踏まず」があることが明らかになっている。アルディなどと比べて親指は開いていない。これらは、私たち現生人類に近い特徴といえる。

もっと“ヒト”らしくなった
Lucy

化石が教えてくれる人類のヒミツ2

アウストラロピテクス・アファレンシス

370万年前～300万年前になると、タンザニア、エチオピア、ケニアなどに「アウストラロピテクス・アファレンシス」という人類が現れました。

各地で見つかるこの人類の化石の中では、エチオピアで発見された「ルーシー」という全身の化石が最もよく研究されています。アウストラロピテクス・

アファレンシスは、二足歩行することに適した骨格で、その姿はアルディと比べるとずいぶんと現在の私たちに近いものです。また、がっしりとした顎骨や顎などを持っており、硬いものも食べができるようになっていました。